

生涯学習だより



人心～「人きたえあう【ふゆ】……北国に生きる力」

～かみしほろの健やかな育ち～

年間テーマ 「ささえあいの地域づくり」

3月で閉校～「地域とともに歩んだ北居辺小学校」特集



昭和39年、東京オリンピック開催記念で撮られた校舎全景の空撮写真

大正七年に開校し、九十六年間の歴史を持つ町立北居辺小学校が、今年度をもって閉校し、地域の方たちと築き上げてきたその伝統ある歴史に幕を閉じることとなりました。

地域と共に歩みながら、多くの人材を育て、世に送り出してきた同校のこれまでの歴史を、PTAや地域の取り組みなどを中心に取材しましたので、皆様にお知らせ致します。

北居辺小の伝統、地域と一体となったPTA活動



運動会での地域参加競技「綱引き」

北居辺小学校の歴史は、北海道内の多くの学校と同じように、開拓民自らが資金と労力を投じて学校を開いたことに始まります。

北居辺小学校PTAの活動は、保護者に加え地域住民も会員として活動を支えています。活動の中心は保護者会員が担っていますが、加えて校区内の各地区より運営委員を選出し、PTAと地区的パイプ役として活躍しています。

PTA活動は「役員会」、「総務部」、「母の会」の三部体制で取り組んでいます。地域住民が担う運営委員は、総務部の所属となつて、学校・PTAと地域の連絡のほか、運動会などの学校行事と地域を繋ぐ活動を行っています。地域参加競技の企画と運営、青年会と連携した売店の運営など、地域一体の雰囲気づくりに奮闘しています。また、「母の会」は、名前とのおり母親を中心の活動であります。

（校長 高原 茂雄）

り、今年度は閉校記念Tシャツの制作に取り組み、活動を大いにPRしました。

このように、「子どもたちのためにできることをやる」という開拓期以来の伝統を受け継ぎ、全ての会員が力いっぱい活動するのが北居辺小学校PTAのよいところです。

北居辺小　自慢の郷土資料室

北居辺小学校には、「郷土資料室」という、開拓期や戦前・戦中の貴重な資料を展示している部屋があります。どこかのまちの郷土資料館かと思えるほど立派なこの部屋は、「開拓の苦労を三世・四世へ伝えたい」という、北居辺地区に住む方々の思いが詰まったものです。昭和五十五年十一月二十一日にオープンしたこの郷土資料室は、郷土史の理解を深め祖父母の苦労を知つてもらうことを目的に、地域から収集して作られました。地域の方々もこの気持ちに応えるよう提供し、三百点を超える貴重な農機具や生活用具が集まつたそうです。その



入口前にも、貴重な資料が展示されています

まさに、尽力された地域の方々や、当時の教職員の方々のエネルギーが凝縮された空間です。

これまでにも、この郷土資料室を活用した「北居辺学習」に取り組み、祖父母、あるいは曾祖父母の苦労や、心意気を学びながら、人材の育成に努めてきました。北居辺小学校は今年三月で閉校となり、上士幌小学校へ統合となります。地域住民の皆さんを作り上げた、「郷土資料室」を通して学んだ、「地域を愛する心」、「苦労や挫折に負けない強い気持ち」は、きっとこの町を支え続けていくことでしょう。



郷土資料室入口

ため、最初に予定していたスペースでは足りなくなり、空き教室を利用してのオープンでした。その後、平成五年と平成十六年の二度の整備を経て、現在の姿になりました。

入口前の廊下にも資料は展示されており、一步一步資料室へ近づくたびに、徐々に開拓時代へ歩んでいるような気持ちになります。

中に入つてみると、開拓期から戦前・戦中頃まで実際に使われていた生活用具などが所せましと展示され、その時代にタイムスリップしたかのような雰囲気に圧倒されます。



資料室の中は、所せましと貴重品が並びます

地域とともに95年 ~懐かしの風景~

昭和四十年代



『校内なわとび大会』(S45)

校庭で縄跳びをしている後ろに、平成元年まで使われていた校舎を見ることができます。



『第1回冬季運動会』(S48)

子どもも保護者も地域住民も、楽しそうに一緒に昼食をとっている様子です。



『スケートリンクの稽古じまい』(S51)

1年の練習最終日は、餅つきをして締めくくっていたようです



『新校舎落成記念祝賀会』(H元)

今の校舎が完成したのが平成元年です。その落成を祝う式典の様子です。



『学芸会』(S47)

大人も出し物で盛り上げていたようです。



PTAによる兎小屋の設置 (S49)

子どものための環境整備も住民の手で行いました



『地域の方にそばづくりを教わる』(S63)

地域に住む方が先生となり、子どもたちにそば作りを教えています。



『最後の冬季運動会』(H26)

閉校記念として、熱気球の体験搭乗を行いました。

一ささえあいの地域づくり

◇中学生が大活躍 ~ひとり暮らし高齢者親睦会~

事前に上士幌中学校の一年生四十三名が、認知症サポートーー養成研修を受け、高齢者との接し方などを学び、ボランティアとして参加しました。

高齢者親睦会（社会福祉協議会主催）が、一月三十日（木）に行われました。

今年も、ひとり暮らし高齢者親睦会（社会福祉協議会主催）が、一月三十日（木）に行われました。



ジャンケンに負けて肩たたきをする生徒

会場に花を添えたのは「絆の会」の人たちが何か月もかけて作った、ランチョンマットや箸袋でした。

親睦会では、グル

ープごとに自己紹介やジャンケンをして、

中学生が負けたら肩

たたき、勝つたら参

加者の人生経験などを

聞き、楽しいひと時を過ごしました。

参加者のなかには、豚汁を「おいしい、おいしい」とおわりをして食べる人もいました。

最後に中学生の合唱（あ

のすばらしい愛をもう一度・花は咲く）では、一緒に口ずさむ人たちもいて、和やかなうちに親睦会は終わりました。

司会進行を務めた一年組の山口沙羅さんは、「とても緊張したけれど上手く進められ、参加者の方々とも楽しくお話しることができた」と、笑顔で話してくれました。

（大友）



廣瀬教授の講話

（参加者 嘉藤貴之）

自分たちの幸せは、自分たちの手で作つていいく」という目標を立て、くと青年層が学び、実践する講座が、今年度から始まりました。

二十代を中心に十九名が集まり、札幌のNPOや沼田町の実践などを学びました。

そして、青年教育研究の第一人者である宇都宮大学の廣瀬隆人教授に来て頂き、全国的な青年の活動の動向や、成功したケース、失敗したケースなどを伺い、「あなたたち自身が幸せづくりをしていくことが町全体の幸せづくりにつながる」

事前にご両親からプレゼントを預かり、十二月二十四日にサンタの姿に扮装し届けました。家族にもメリーカリスマスと、手作りのクッキーも添えました。届けた家庭の子どもや家族の皆さんのがんこ顔を思い浮かべ、自分たちも幸せな気分のクリスマスを過ごすことができました。

今後は、このモチベーションを保ちながら、このまちで、自分たちがみなさんと楽しく暮らしていくための方法を考えていきたいと思います。

開催内容などは、事前に同館に電話（四一二三二三）で確認することをお勧めします。

情報委員のおすすめスポット

おすすめスポット

上士幌の馬頭さん展

「自分の手で作つていい」という目標を立て、くと青年層が学び、実践する講座が、今年度から始まりました。

二十代を中心に十九名が集まり、札幌のNPOや沼田町の実践などを学びました。

そして、青年教育研究の第一人者である宇都宮大学の廣瀬隆人教授に来て頂き、全国的な青年の活動の動向や、成功したケース、失敗したケースなどを伺い、「あなたたち自身が幸せづくりをしていくことが町全体の幸せづくりにつながる」

事前にご両親からプレゼントを預かり、十二月二十四日にサンタの姿に扮装し届けました。家族にもメリーカリスマスと、手作りのクッキーも添えました。届けた家庭の子どもや家族の皆さんのがんこ顔を思い浮かべ、自分たちも幸せな気分のクリスマスを過ごすことができました。

今後は、このモチベーションを保ちながら、このまちで、自分たちがみなさんと楽しく暮らしていくための方法を考えていきたいと思います。

開催内容などは、事前に同館に電話（四一二三二三）で確認することをお勧めします。

情報委員のおすすめスポット

おすすめスポット

上士幌の馬頭さん展



上士幌の馬頭さん展